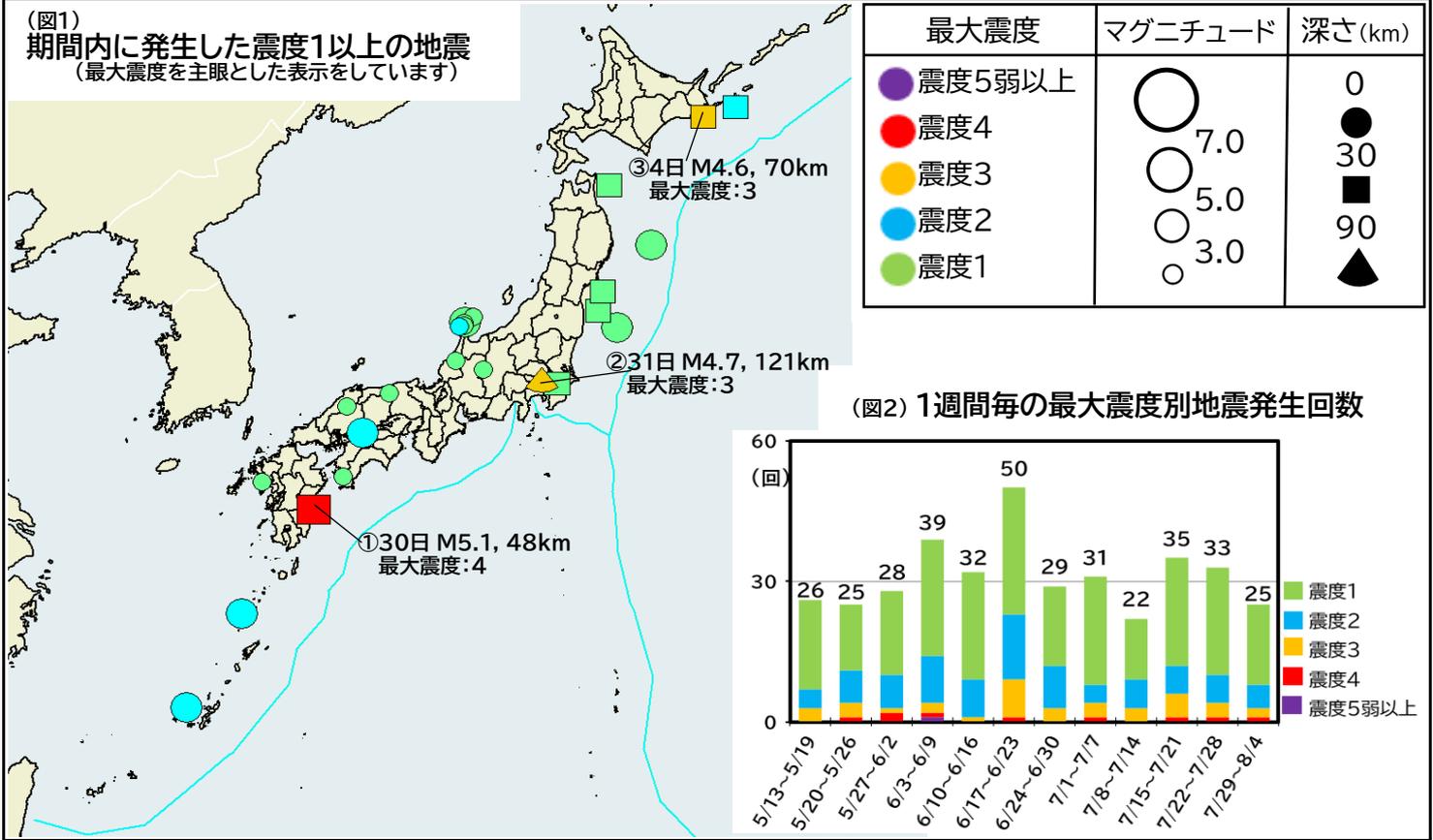


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が25回発生。最大震度は4。■
- ①7月30日01時25分に日向灘で発生した地震(M5.1、深さ48km)により、宮崎県宮崎市・西都市・高千穂町で震度4を観測したほか、九州地方を中心に中国地方及び四国地方で震度3~1を観測。
- ②7月31日01時47分に東京都多摩東部で発生した地震(M4.7、深さ121km)により、東京都町田市および千葉県南房総市で震度3を観測したほか、福島県から静岡県にかけて震度2~1を観測。
- ③8月4日22時19分に釧路沖で発生した地震(M4.6、深さ70km:速報値)により、根室市・浜中町など北海道東部で震度3を観測したほか、北海道東部と青森県で震度2~1を観測。

トピックス

- 能登半島沖などの海域でM7以上のおそれのある海底活断層を公表 ■
- ・政府の地震調査委員会は、これまで繰り返し活動し将来も活動すると推定され、社会的に大きな影響を与えると考えられる主要な陸域の活断層などについて地震発生可能性の長期評価を実施しています。
- ・活断層は海域にも存在しており、これらが活動した場合も地震動や津波により被害を及ぼす可能性があります。海底活断層により大きな被害を受けた地震としては2005年の福岡県西方沖の地震や1993年北海道南西沖地震などがあります。
- ・このため、地震調査委員会は日本海側の海域活断層の長期評価を順次進めているところですが、能登半島地震を受けて8月2日に兵庫県北方沖から新潟県上越地方沖にかけての海域でマグニチュード7以上の地震を引き起こすおそれがある活断層が、25か所あるとする調査結果を公表しました。
- ・最も長い活断層は、元日の能登半島地震を引き起こしたとみられている「能登半島北岸断層帯」でおよそ94キロに上り、地震の規模はM7.8から8.1程度と推定されています。
- ・今般発表されたのは、海域活断層の位置や長さ、推定される地震の規模(M)の長期評価の一部であり、今後30年以内の地震発生確率は来年中に追加で公表するとしている。
- ・今後、新潟県沖から北海道にかけての日本海側についての海底活断層についても評価を進めることにしています。

